

ひまわり通信

令和元年 12月号

★12月のグルメテー★

おでん

日	月	火	水	木	金	土
1日 休み	2日 詩吟・将棋 ゲーム	3日 トランプ ゲーム	4日 手芸クラブ 体操	5日 トランプ・将棋 カラオケ	6日 書道教室 ゲーム	7日 フラレインボー トランプ ゲーム
8日 休み	9日 詩吟・将棋 体操	10日 トランプ 体操 グルメテー	11日 手芸クラブ ゲーム	12日 トランプ・将棋 ゲーム	13日 書道教室 体操	14日 トランプ カラオケ
15日 休み	16日 詩吟・将棋 体操	17日 トランプ 体操	18日 手芸クラブ ゲーム	19日 トランプ・将棋 ゲーム	20日 書道教室 体操	21日 トランプ 脳トレ
22日 休み	23日 詩吟・将棋 ゲーム	24日 トランプ ゲーム	25日 手芸クラブ カラオケ	26日 トランプ・将棋 体操	27日 書道教室 ゲーム	28日 トランプ ゲーム
29日 休み	30日 詩吟・将棋 カラオケ	31日 休み	1月1日 休み	1月2日 休み	1月3日 休み	1月4日 通常営業

N家の物語 ~第二章~

祖母の暮らす場所は高齢化・過疎化が進む、九州のとある県です。気候に左右される農業が主な産業で、毎年やってくる大型台風に立ち向かうため地域で助け合って生活していくことが必要不可欠です。このような地域性もあり、現在も近所の関係はとても濃密です。家族構成はもちろん、家庭の内情まで知っている状況があります。細かな決まり事や暗黙の了解が沢山あり面倒だと感じることも多い一方で、このような地域だからこそ祖母は94歳まで一人暮らしを続けることができたのではないかと思います。祖母の面倒をみるため故郷に戻った父と、父が帰ってきたことで何もしなくなった祖母。そんな祖母を心配し父と対立する私達姉妹…。N家の物語第二章、スタートです！！

父の自己満足

同居開始から3ヶ月後のお正月に見た、父の祖母に対する行動は「こうしていれば楽だろう。喜ぶだろう。」と勝手な思い込みで先走り、祖母のできることを奪っているのではないかと感じていました。「ばあさんの為。」と言いながら、甲斐甲斐しく祖母の世話を焼くことで「親孝行をしている自分」に酔っているようにさえ見えました。父に「できることはやってもらった方がいいんじゃない？」と言いましたが全く聞く耳を持ちません。それならと祖母に「お父さんが帰ってきてどう？生活は窮屈じゃない？」と尋ねてみましたが「助かるよ。周りは若い人が帰って来るとのうちは自分一人で近所に示しがつかんかった。」と世間体に対する答えが返ってくるばかりでした。「助かっている。」と言われた父は「ほら見ろ！」と言わんばかりの表情です。何だかよく分からぬ敗北感とモヤモヤを感じたまま、広島へ帰る日を迎えてしました。

祖母の反乱

祖母と父の同居生活が4ヶ月になろうとしていたある日、N家で事件が起きたことを母からの連絡で知りました。散歩に行くため父が歩行器に手をかけ手伝おうとした時、祖母が父の手を振り払い「手伝わなくていい！」と強く言ったのです。歩行器は倒れ、「自分でできるわ！」と声を荒げる祖母に父はびっくり！大きな声に何事かと出てきた近所の人が祖母をなだめ、その場は収まつたそうです。この日を境に祖母の反乱(！？)が始まります。自分が使った食器は自分で洗う。洗濯物の干し方を指摘する。父に指図しながら、得意なちらし寿司を作る。父が帰ってから全てに対して受け身だった祖母が、自分の『想い』を伝えるようになりました。

N家の物語 ~最終章~

この時の事を、同居開始から半年後に祖母は私に次のように話してくれました。
「息子が帰ってきた当初は頼りきっていた。自分の性に合わない生活が続いて我慢できなくなり、手を払うことをしてしまった。一生懸命やっくれる姿をみて言い出せなかった。」この話を父に伝えると「はっきり言ってよかったです。やってあげたい気持ちばかりで、ばあさんがどうしたいかは聞いたことがなかった。本音を聞くのが怖かったのかもしれない。」と話してくれました。父は祖母の『想い』に、私達姉妹は支える側である父の『想い』に耳を傾けることなく発言や行動をしていました。家族だからこそ言えない、聞けない『想い』があったのかもしれません。この事件をきっかけに父はなるべく祖母に任せるよう心掛けているようです。それでも時々【やってあげたい虫】が顔を出します。寒天を作ろうと袋に書いてある分量を老眼鏡と虫メガネを使って読もうとする祖母に「そんな小さい字、見えるわけないだろ。貸してみ！」と言う父。「読める！まだ目は見えとる!!」と返す祖母。そんな祖母の姿に「やっぱりおばあちゃんはこうでなくちゃね！」と、今は家族の『想い』が一致しています。N家の課題はまだまだ山積みですが、この親子の微笑ましい戦いはこれからも続きそうです(^▽^) —END—

終わりに…

N家の物語、いかがでしたか？もっと早くそれぞれの『想い』を聞くことができていたら、私たち家族は他の選択肢を持つこともできたのではないか？と感じています。祖母は自ら発信することで私たちに本当の『想い』を伝えてくれました。それができたのは祖母がしっかりと自分の『想い』を持っていたからです。

私はこの出来事を通して、後悔のない人生の最期を迎えるためには、まず自分自身が何を大切にし、どうしたいのかを明確にしておく必要があると感じました。そして私たち介護の専門職は本人の『想い』はもちろん、家族だからこそ伝えられないそれぞれの『想い』を汲み取る存在であること、あらゆる選択肢を提案できる準備をしておく責任があることを改めて強く感じました。

2ヶ月に渡ってお届けしたN家の物語が、ご自身やご家族の未来を想像してみるきっかけになればうれしいです☆



担当はS原でした♪

ふれあいセンター協同
デイサービスセンターひまわり ふれあいセンター協同 2階
 安佐南区西原九丁目8-22 電話：874-4085 FAX：874-4093 管理者：鬼塚
 ●写真の掲載につきましてはご利用者様・ご家族様の了解を頂いています。
昼食付無料体験利用実施中！！☆お気軽にお問合せください☆